

「さがみロボット産業特区」平成 26 年度の取組について

項 目	取 組 の 概 要
国との協議による規制緩和の実現や補助金等の獲得	新たな規制緩和として「介護ロボットへの介護保険適用」を提案するほか、15プロジェクトについて国の財政支援の活用を予定するなど、年2回（春、秋）の協議に合わせ、必要な規制緩和等を要望していく。
重点プロジェクトの推進	アドバイザーによる支援を新たに実施するとともに、モニター評価を中心とした実証実験の実施を支援する。
公募型「ロボット実証実験支援事業」の実施	元新磯高校を活用して、校舎や廊下・体育館・グラウンド・仮設プールなどを利用した様々な実証実験が可能な実証の「場」を新たに開設する。また、支援対象経費の拡充を図る。 実証案件の掘り起こしに当たっては、他県の有望な案件への個別アプローチも行っていく。
神奈川版オープンイノベーションの展開	現在進めている5件の共同研究開発に加え、今後、新たに3件の立ち上げを目指す。 また、ロボットの信頼性を評価する機器として、振動試験機及び複合サイクル試験機を新たに整備する。
企業誘致の促進 ・「県版特区」の取組	企業立地トップセミナーの開催や特区内市町における金融機関プロモーションの実施など、県と市町が連携して、企業誘致活動を実施する。 県が権限を持つ各種規制を見直した「県版特区」を活用し、県と市町が連携して企業の立地の受け皿となる産業適地を積極的に創出していく。
ロボットハウス ・ロボットタウンの整備	住宅展示場のモデルハウス（ロボットハウス）や住宅分譲地の住宅・街区（ロボットタウン）に生活支援ロボットを設置して、来場者に体験していただくとともに、ロボット開発企業等によるデモなども実施する。
普及啓発の取組	パンフレットの配布やホームページの新規作成など、イメージキャラクターの活用等によるPRを強化する。 「シンボル施設」である湘南ロボケアセンターなどの充実を図り、連携して特区の普及啓発を行う。 地域のイベントにおけるロボット体験等を引き続き実施する。
「さがみロボット産業特区」の数値目標	平成25年度の実績を踏まえ、実証実験に係る数値目標を上方修正する。

